

本道の主要水産資源の増減や魚体サイズなどを長期間にわたってモニタリングし、資源管理を推進しています

背景

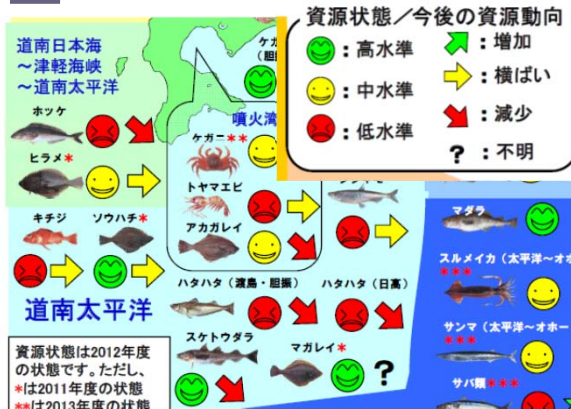
- 水産資源は海洋環境と漁獲量の影響を受けて毎年変化しています。
- 漁獲量の減少や操業コストの高騰などにより、漁業者の経営環境が悪化しています。
- 資源の持続的な利用のためには、資源状態の的確な把握と状況に応じた管理が必要です。

漁獲物の測定



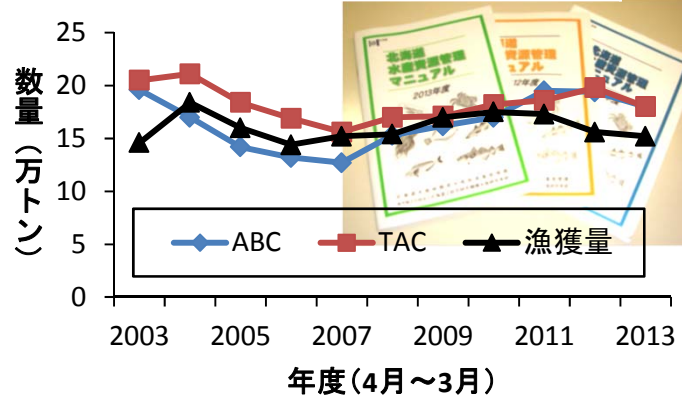
成果

1 主要水産資源の水準と動向の把握



北海道周辺海域の主要な47水産資源の資源水準・動向を評価し、毎年公表しています。

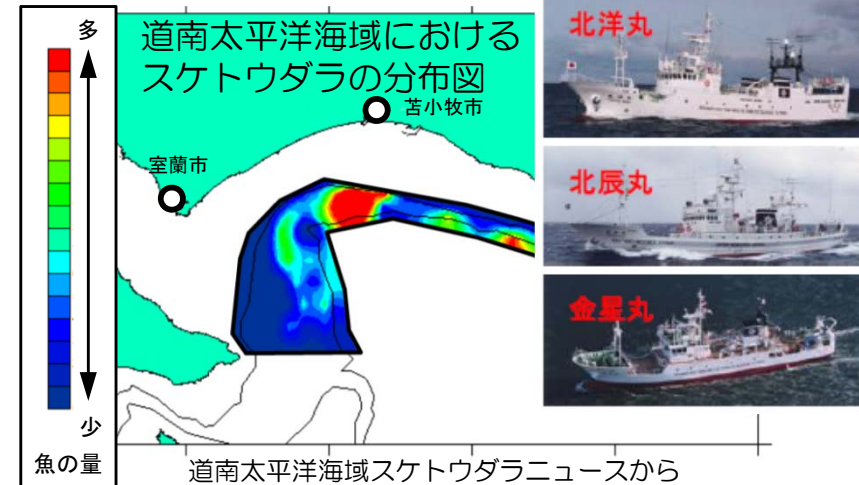
2 モニタリング結果に基づく水産資源管理



太平洋海域のスケトウダラABC・TAC・漁獲量の推移

モニタリングと評価結果は、国の資源評価やTAC※の基となるABC※の算定、北海道の水産資源の管理方策の策定に活用されています。

3 漁獲動向や漁場形成などの漁況予測



漁獲量や漁場などの予測（漁況予測）は、漁業者等に情報提供されています。

期待される効果

- 精度の高い資源評価や漁況予測は、資源の持続的利用に向けた国および道の各種施策に活用されています。
- 精度の高い漁況予測は、操業コストの削減と漁業経営安定に寄与します。

※ABC：生物学的許容漁獲量（Allowable Biological Catch）科学的根拠に基づいて計算された資源の持続的利用を可能とする漁獲量
TAC：漁獲可能量（Total Allowable Catch）ABCに社会・経済的要因を加味して決定された漁獲量